

# あったかホーム 老いも若きも語ろう

「老いも若きも」という子供から高齢者に至るまで、様々な世代の人たちが集える場所（家）を開設。地域の様々な人達の交流の場となっており、利用者数も年々増加しており、交流の輪が広がっている。

社会福祉法人 **真盛園**

〒520-0113 滋賀県大津市坂本五丁目13-1

TEL：077-578-0044 / FAX：077-579-3839 / E-Mail：umigisi@sinseien.jp

## 【法人の概要】

法人設立年：昭和31年5月

経営施設、事業（数）：2施設、10事業

経営施設、事業（種別）：

特別養護老人ホーム…1 / 特定施設入居者生活介護…1 / 養護老人ホーム…1 デイサービス…1 / 在宅介護支援センター…1 / 居宅介護支援事業所…1 / 訪問介護事業所…1 / 訪問看護ステーション…1、ショートステイ…1 / 地域交流センター…1

## 【法人の理念・経営方針】

- ・人間平等の原則の上に乗っての福祉増進
- ・宗教的雰囲気の中での心のやすらぎ
- ・恵まれた自然環境下での健康保持  
介護方針
- ・利用者主体に努めます
- ・その人らしい自立(自律)した生活を支援します
- ・サービスの質の向上及び職員の資質の向上に努めます
- ・自分の利用したい施設にします  
介護目標
- ・笑顔で介護します
- ・利用者の立場に立って心を込めて話します
- ・一つ一つの介護の意味を理解して行動します
- ・コミュニケーションを取りながら介護します

## 実施施設の概要

施設名：地域交流センター 「老いも若きも」

施設種別：あったかホーム

活動開始年：平成17年1月

活動の頻度・時間：土、日、祭日を除く月～金・10時から16時まで（事前予約により休日の利用も可能）

活動の対象者：子供から大人まで、地域住民すべての方

## 活動実施の背景、実施にいたった理由

少子高齢化の現代、様々な社会問題が混在する中、社会福祉法人として何か地域に貢献できないだろうか、施設の専門性やマンパワーを地域の皆様に還元できないだろうか、と考えていた。誰もが安心して暮らせる地域作りを、地域の皆様と共に作りたい、と言う思いを現実にするべく、地域の知り合いの方から空家をお借りし、事業計画を進めていた。そのような折り滋賀県のあったかホーム事業（平成16年～17年の2ヶ年のみ）の主旨に合致したこともあり、滋賀県・大津市の支援を受け、平成17年1月24日に開設するに至った。現在は、公的補助はなくなったが、地域のニーズもふまえて、事業を当法人の独自事業として継続して取り組んでいる。

「老いも若きも」はその名の通り、子供から高齢者に至るまで、様々な世代の様々な人たちが集えるみんなの家である。

※あったかホーム事業…民家や空き店舗などの既存施設を活用し、地域の高齢者や子供、障がい者など、誰もが介護、子育てサービス、生活支援など多様なサポートが受けられ、さらに環境、文化など町作りの拠点ともなる場を整備することにより、共に生き、共に支える「くらし安心県」の実現を図ることを目的としている。

## 実施内容

主な活動内容としては、以下の通りである。

- ・赤ちゃんからお父さん、お母さん、高齢者まで様々な世代間交流
- ・介護や子育てのサポート
- ・暮らしの情報交換・ネットワーク作り
- ・子供会、老人会、趣味の会、文化的活動、各種サークル活動などの支援
- ・健康教室、体操教室、食育など専門職によるミニカルチャー教室
- ・ふれあいサロン

- ・逆デイサービス
- ・施設への訪問
- ・その他、季節ごとの行事（ex 花祭り、地藏盆、紅葉狩り等々）

「老いも若きも」という場所が誰にとっても、思う存分、自分らしさを発揮出来る場所になることを目指した取り組み。

\*上記記載内容のうち、こちらから仕掛け作りをすることもあるが、おおむね地域の方達の自主的な活動である。

### 活動効果

開設して2年6ヶ月をすぎ延べ利用者数が13,000人を超えた。

1ヶ月の平均利用者数は、440名程度、1日平均利用者数は、22人である。

これは、介護保険制度の枠組みをはずしたことや、利用料が無料であることを考慮しても驚異的な数字といえる。1年目～2年目そして3年目の今年と利用者数は伸び続けているという事実がある。また世代別利用者割合を見ても、高齢者43%、大人34%、子供23%と、一部に偏ることなく、様々な世代に利用されている。

さらに利用者の8割がリピーターである。これは「老いも若きも」という場所が自分の「居場所」になっていることを物語っているのではないか。

まさしく「老いも若きも」は地域の様々な人達の自然な交流の場となり、交流の輪も自然に広がってきている。地域のまだ比較的元気な高齢者にとっても、自分の役に立つ場所があり、自然に子供達とも交流でき、底辺で専門職に支えられているという、まさしく国の目指す「介護予防」の効果も満たしていると日々肌で感じている。

### 今後の課題

一番の課題は経営面である。経費（家賃・光熱費・人件費）の大半は法人からの持ち出しである。介護報酬が段階的に削減される中、当初の見通しは甘かったことを反省している。しかし現実地域のニーズが目の前にある以上、地域交流センター「老いも若きも」は必要な存在である。今後のどのようにして維持していくのが最大の課題である。しかし住民達の中からも、

存続問題に関しては、非常に関心を寄せられているので、地域の力を借りながら解決に向けて取り組もうと準備している。

